



●会計学I・II

田中 久夫 教授

【たなか ひさお】

1957年高崎で生まれ、謹厳実直な硬派の良品を目指して努力してきたが断念。結果50年の間、軟派の不良を続けてきた。可哀想に一妻三女有り。それでも生活信条は「(た)のしく、(な)かよく、(か)っこよく」。車、ゴルフ、酒、温泉、怠惰をこよく愛す。今年の目標は毎日日記をつけること。

乱読の本との出会い

私のことを思い出してみると、高崎から東京に上京して憧れの一人暮らしが始まり、毎日が楽しくてアツという間に4年間が終わってしまいました。それでも、大学入学後まもなく行った生協の本棚から薄くて安い1冊の会計学の本を手に取り、なにかインスピレーションを感じてそれを購入して読み始めたんだ。もとより普通高校出身の私だから、簿記のことも皆自分からないままその本を読んでいた。でも、あとで考えるとこれが名著だったんだ。高名な先生が斯界を代表する出版社から出した基本書だったんだ。うまく説明出来ないけど、中身はまったく分からなくてもどうしてもそれを理解してみたい気持ちを起こさせる本だったんだ。文章が魅力的だったのかなあ……。その時直感的にこの本を理解できるかどうか私のそれから多大な影響を及ぼすような気がして、その後この本と同じようなタイトルの会計学書を200冊ほど買い込み、1年足らずのうちに、乱読、読了した。そしてもう一度この本を読んだとき、そのすべてが理解できる自分になっていたんだ。計画性もないままだ乱読してただけなんだけど、どの本にも載っているところはベーシックなところであり、ある本にしか載ってない部分はその著者オリジナルの言説だということが理解できるようになったんだ。そういった体験の中から、いろいろな人の考えを取り入れて自分が講釈できる会計学の体系が構築されていったんだと思う。この時のわずかな期間がその後の私を形造り、いまの姿(君たちに会計学を講義する教員)になったんだ。あのときの直感と膨大な量の無計画な乱読が一人の人間の一生の生活を支える糧になったわけだね。ちなみに、最近この本を出版していた出版社から私も本を出版しました。ちょっと嬉しい。私の本を読んで会計学を志す学生が生まれたら最高だね。